

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	病気を抱えながらも安心して暮らせるサービスの提供を理念として取り組んでいます。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を元とした考え方で職員間の意識の共有が出来るようコミュニケーションを図り、各関係機関との連携にも取り組んでいます。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	スタッフはいつでも理念を意識付けられるよう名札裏に提示しておりホーム内の掲示やパンフレットへの記載、説明する機会があれば常に話の中に織り込むよう心がけています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域行事への参加や通行の際の挨拶など意識して働きかけはしています。		散歩中の挨拶や会話、ホームへの気軽な立ち寄りが増えるような働きかけを模索しながら積極的に進めていきたいと考えています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	参加可能な事柄については出来る限り関わりを持つようにしています。		入居者様のご家族等の協力を得るなど様々な方法を検討しながら少しでも関わりを強められるよう努力したいと考えています。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状では取り組めていません。		外部に向けてホームを知っていただけるような働きかけを進め何ができるのかという情報収集などに努めたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価前には職員にも啓発を行い、管理者自身1年間を振り返り自己評価するよう取り組んでいます。評価後は、出来る限りの改善への取り組みを心がけて対応していますが、後手に回るものもあります。		新たな評価を元に1つずつ改善できるよう取り組みたいと思います。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回と定期的な会議の実施は出来ていて、報告ばかりでなく意見交換や情報提供を積極的にさせていいただきながら意見が活かせるように努めています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が窓口となり関わりを強めて下さっているので、それらの意見や情報を元にサービスの向上につなげられる様努めています。機会があれば自身も参加するような体制で取り組んでいます。		今後もサービス向上の為に取り組んでいきたいと思えます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修での受講やマニュアルを準備、意識してスタッフへは指導しています。活用対象者は今までにはありませんでした。		制度の理解度は不十分であると思っていますので、分かりやすい説明が出来るよう知識を深めたいと思います。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを職員がすぐに見れるよう設置し、どのようなことが虐待となり得るのか日頃のケアの中で意見交換や指導をおこむようにしています。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時などでは十分な時間をとり書面をもって十分に説明を行い、また質問を受けて不明な点をクリアにするような対応に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、苦情処理担当者を決め、苦情に対して対応出来るようにしています。外部の相談窓口などは行政のポスターを目立つ場所に掲示しています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行しているホーム通信やホーム内の掲示コーナーを活用して様々な報告や情報開示を行っています。また、面会時は事務所に入って頂きやすい雰囲気作りに努めたり玄関先で気軽にお話させて頂くようにしています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族招待行事を年に数回定期的に行い、アンケート調査や会話の機会を設けたり推進会議内での意見の聴衆で意見や情報の収集に努めそれらを運営に反映させるようには意識しています。		近い将来的には家族個別ではなく全体でまとまって話ができるような場が作れるような方法を模索しながら取り組めればと考えています。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等でスタッフとの意見交換を行っています。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な人材が確保出来るようにスタッフと意見交換しながら勤務調整は行っています。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	十分に配慮しながら対応できていると思います。開所時から今日までの離職者の少なさにも安心感を感じいただけていると思っています。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証	採用に関しては必要な資格の保持以外に特に条件提示はしていません。人柄、意欲を重視した面接をさせて頂いています。採用後は積極的に特技を活かしてもらいながら意欲的に勤務してもらえよう十分な配慮をしていると思います。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	機会あるごとに指導しています。	
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	過去の評価での指摘事項を踏まえ、今年度から社内研修を3ヶ月に1度実施しています。協力医療機関での勉強会へも参加しています。個人研修は情報発信のみに留まっているケースが多くなっています。	研修の機会や内容を充実させて行きたいです。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催されている遠賀町福祉事業者連絡会へ参加しています。	
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室、仮眠室は入居者の生活スペースとは別の場所に確保し業務とは切り離れた休息時間が取れるよう配慮しています。また、休日希望などは一定のルールを設け柔軟に対応するように努めています。	
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ個々に定期的な自己評価を実施してもらい、各自が自己の振り返りや客観性、目標などの動機付けに役立ててもらい、またそれらの考えが実行に移せるようサポートを行うようにしています。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前面談を原則として行うようにしています。また、入居直後は小まめに時間をとり対話とニーズの分析に取り組むようにしています。	
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談、契約面談、入居時の関わりと段階を踏んで時間を十分にとって対応できるように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点ですぐは現状がどうなのかなど様々な角度で話を傾聴し、他のサービスも含めた内容で入居申込みの説明を行うように努めています。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の状況に応じて柔軟に対応するようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話や何気ないやり取りの中で互いのコミュニケーションを深め、する一方でなく些細な家事でもやりがいを感じていただけるよう適性を見極めながら関わって頂いています。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでもご家族との会話の機会を持ち、共に関わりあっていける関係作りの構築に努めるようにしています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居に至るまでのご家族の歴史や生活像の把握に努め、入居によってよりよい関係が築けるようなサポートを個々に合わせて柔軟に対応するように努めています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々のケースに合わせてご家族様の協力を含め柔軟に対応するようにしています。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の過ごし方や家事活動、レク活動、食事中の会話など注意深く観察し情報収集をしながら関係作りのサポートを行うようにしています。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	個々のケースに合わせて柔軟に対応するようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に合わせて話し易い雰囲気作りに努め、意向の把握が行えるように取り組み、柔軟な対応を行うようになっています。	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時や入居後もご本人、ご家族それぞれに機会をみては聞き取りが出来るよう会話に努めて把握できるようにしています。	
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活状況、健康状態、他者や家族との関わりを踏まえて個々を把握するように努めています。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、関係担当者との意見交換やニーズの反映を重視して介護計画を作成するようにしています。	
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと計画の検討、状況変化には少し先を見据えた対応を踏まえて見直しを行っています。	
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、健康管理表等の個別記録を毎日実施しています。実践における情報共有も専用の送りノートを利用して経過を計画の見直しに役立てています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の状況に応じて柔軟な対応を行うようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行政ボランティア、自治区の民生委員、近隣の教育機関などの協力を得ながら今までに手が回らなかったご要望に支援を行うことができるようになってきました。		今以上の関わりが持てるよう協力体制を強めて行きたいです。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個々の状況に応じて柔軟な対応を行うようにしています。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では協働はしていません。		今後、協働できるように努めて行きたいと考えています。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院との連携を図り、ホームで対応が可能な内容の受診や通院先であれば出来る限りの対応と医療情報の把握に努めています。ご家族の対応が必要な受診に対しては十分な説明を欠かさないよう配慮して相談するようにしています。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療機関との関係作りには充分努め、可能な限りの対応が出来るように支援しています。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を有している施設長を中心として、管理者を窓口として協力医療機関と日々関係作りに努め、健康管理に活かすスタッフの知識向上に役立てられるよう取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常に心がけながら病院サイドに働きかけを行ったり足を運ぶようにしています。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から主治医との連携を図り、必要時には医療機関の協力を得ながら、迅速な対応ができるよう話し合いなどを持つようにしています。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	普段から終末期に対してのホームでの対応については意識して取り組み状況に応じて主治医との検討の機会を設けて出来る限りの万全の対応に努めるようにしています。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境変化がもたらすダメージについて理解を深めていただけるよう常に念頭において説明や情報交換、適切な対応を行うよう努めています。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々への理解を深め、十分に配慮して対応するようにしています。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々への理解を深め、スタッフそれぞれが十分に配慮して対応するようにしています。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを優先する基本姿勢はスタッフに常に意識付けを行い対応に努めてもらっています。個々のニーズは様々で健康状態や身体レベルも多様な上に重度化してきているので十分に希望に応じることはできませんが出来る限りの対応には努めています。		個々の希望が少しでもかなう生活環境が提供できるよう様々な検討を重ねて対応につなげられるよう努めたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	寝着と日常着、外出着などご家族の協力を得ながら配慮した身だしなみがしていただけるよう支援しています。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど大勢で作業しやすい環境を整えているので個々に適した作業で関わりを持って頂きながら食事に関わる時間を楽しんでいただけるよう支援するようにしています。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康管理に配慮して柔軟に対応するようにしています。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自室にトイレを完備していることで周囲に気兼ねなく排泄を行えるようになっていきます。個々の状況に応じて適切な支援で衛生的で快適な排泄環境の提供が行えるよう努めています。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の希望は出来るだけ尊重して対応していますが、身体介護の重度化が近年すすんで入浴実施の時間帯など十分に要望に答えられない面もあると思います。現状では入居者の方たちの理解を頂いてスムーズな援助が定着しています。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調管理に留意しながらご本人のリズムを大切に休息や安眠支援をおこなっています。薬物の使用は必要性や適性・量などを十分に主治医と検討して私用するようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の活動を日々それぞれに実施していくことは難しいですがクラブ活動や家事活動、行事活動など何らかの楽しみを目的に生活が継続されるような支援に努めて対応をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて対応しています。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限りは対応するよう努めていますが、満足していただけるような援助は不足していると思います。個々のニーズは様々であり、体力や健康状態にも差があるので実施が困難な状況にはありますが意識はして対応に努めるようにしています。		現状では早急な改善は難しい状況にありますが、改善策の検討は継続して取り組みたいと思います。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族等の協力をいただいたり行事活動の中に取り入れて支援するようにしています。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングには公衆電話を設置。各居室にも電話の設置が出来るようになっていきます。携帯電話を使用する方もおられました。郵便物は素早く取り次ぎ、代読や返事書きの援助など行うこともあります。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご希望に応じて談話スペースを提供しています。ゆっくりと過ごして頂けるよう自販機の設置や椅子の貸し出しなども行っています。面会時は入浴や清掃などのケアが重ならないよう配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束行為は原則として禁止としてケアにあたっています。止む無く使用する必要性がある場合は十分な検討と話し合いをもってご家族に承諾を得て対応するようにしています。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの重要性を充分理解した上で、自宅としての考え方で常識とされる範囲での安全管理を行うようにしています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	清掃やバイタルチェック、洗濯物配り等でさり気なく居室に入室させていただき定時の安全確認ができるよう業務の動きを工夫しています。また、館内のスタッフの配置に気を配って死角を出来るだけ作らないようにして生活を見守るようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の管理能力を把握し、状況に応じた対応をするようにしています。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全な環境づくりと状況に応じた対応が適切に出来るようマニュアル作りを進めています。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていません。		今後、協力医療機関や消防署等と調整し社内研修等で実施できるよう準備を進めたいと思います。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練、消化訓練は行っている。地域への働きかけを行い緊急連絡網には参加して頂いてはいる。今年の避難訓練等には地域の方の参加が有り、今後も実施して行きたい。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	機会がある毎に説明は分かりやすく行うようにしています。また、必要に応じては主治医などから説明していただく機会を設けて理解を深めていただくこともあります。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段からミーティングなどで様々なケースを話し合い、意識しながら勤務にあたり個々の観察に努めるようにしています。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤のレクチャーは普段から申送りの中に折込、理解や把握につなげるようにしています。また、各自が自己確認が出来るよう薬剤表や専用本、資料などの保管は閲覧しやすいよう配慮し、関連機関の薬剤師との連携も図り情報の収集もスムーズに行えるよう努めています。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に関する知識を深めるよう普段のミーティングの中にも情報を織り込み、個々に応じた観察で病状や体調の把握に努め、主治医との連携もとりながら対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状況に応じた対応を行っています。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分など個物の記録を取り一覧で把握できるようにしています。状態に合わせて食事の形状や量、代替品を検討、調整して対応しています。		入居期間が長く身体レベルの低下が進んだり、90歳前後の高齢で入居されるケースが増えてきている中で嚥下力や病状管理などこの1年で食事に関する様々な課題が見えてきているので十分な対応ができるよう取り組んでいく必要性を感じています。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル対応を行い予防に努めています。また、協力医療機関等から情報収集や衛生指導などを受けるなどして常に最新の対応が出来るよう努めています。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の主となる食材は専業者から購入して安全管理に努めています。衛生管理の面では水周りを中心に消毒用品を常備し、スタッフは個々で何処でも消毒が出来るよう携帯しています。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺は畑や花壇を整備。館内は自然光を多く取り入れ明るく開放的な雰囲気が出るよう装飾品等に気を配っています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を多く取入れることで柔らかく静かな落ち着いた雰囲気作りを心がけています。家庭的な作りとは少し離れた作りの建物なため、館内の装飾品や掲示物で季節感などを工夫するようにしています。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー、ソファコーナー、ベンチ、食卓など様々な場所をつくっていますので、個々に気に入った場所で気の合う方と思い思いに過ごしていらっやいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については入居説明やパンフなどにホームの趣旨を記載・説明させて頂いていますのでそれらを踏まえご本人の状況や好みに応じた作りをしていただようになっています。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・トイレには24時間換気システムを取入れています。室温調整は各居室のリモコンの他、事務所でも管理できるようにしているので気温に応じた適温を保つよう配慮して対応しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時は手摺や家具など何かに掴まる事ができ、車椅子には十分な幅の廊下になっています。また見通しがよく単独の移動を見守りやすい設計になっています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	電気はヒモにするかスイッチにするかなど個々の生活習慣や現状の理解力などに応じて環境作りを行うようにして、混乱を最小限に出来るよう検討し、必要な工夫を行うようにしています。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や畑、日向ぼっこ用のベンチの設置などクラブ活動を中心に整備しています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

高齢者やそのご家族が心配されたり実際の生活でお困りになる「健康管理や病気への対応」という悩みを抱えながら高齢者施設を探すケースは年々増える一方です。当ホームに相談にこられる方の多くが「その点でこちらのお話を伺いに来ました」とおっしゃる事が増えてきています。私たちは開所当時から日々、運営理念である「病気を抱えながらも安心して暮らせるホームづくり」に取り組むため、医療機関との連携を密にし様々なご指導を頂きながら、スタッフ1人1人が体調管理が充分にできるような介護に努めています。また、家庭的な雰囲気づくりや地域との交流も充実できるよう少しずつですが環境整備や行事活動など新たな試みにも取り組んでいます。